

# 学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾  
麻生建築&デザイン専門学校

## 目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況 .....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針 .....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿 .....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況 .....	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法 .....	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法 .....	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告 .....	- 5 -
1. 重点項目について .....	- 5 -
2. 基準項目について .....	- 6 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生建築&デザイン専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
業界関係者	高木 秀樹	株式会社住まいえ 代表取締役	出席
業界関係者	中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長	出席
業界関係者	福田 哲也	合同会社 if architects 代表社員	出席
業界関係者	田邊 聡	JAPANO 合同会社 代表社員	出席
業界関係者	和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役	出席
業界関係者	宮本 清美	株式会社エイジェック 課員	出席
業界関係者	松田 淳司	株式会社ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 本社制作部長	出席
業界関係者	板橋 正志	株式会社ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長	出席
有識者	井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表	出席
有識者	元木 昭平	ウームデザインオフィス 代表	出席
有識者	太田 昌宏	愛知産業大学 教授	出席
高等学校	市川 仁士	福岡県立福岡工業高等学校 校長	出席
地域住民	小林 芳光	博多区博多駅南第4区自治会 民生委員	出席
卒業生	伊藤 宏次朗	令和4年度 建築工学科 卒業生	出席
保護者等	中村 直子	建築工学科 在校生 保護者等	出席

※区分別、五十音順、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2023年 6月23日（金）14:00 ～ 15:30

場 所：麻生建築&デザイン専門学校 7号館5階 754教室

（※一部参加者はオンラインで出席）

### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2022年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題や改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- （1）自己評価結果の内容が適切かどうか
- （2）今後の解決方向が適切かどうか
- （3）学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- （4）その他、学校の運営に関する助言

### 5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく達成度による下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

#### 評価基準

- S：適切
- A：ほぼ適切
- B：やや不適切
- C：不適切

## II. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 【重点項目】

##### ①新任教員の研修・教育を行い、質の向上を図る

新しい教員が多く赴任することとなったため、学内ルール、学生指導、授業運営について研修を計画し、教育方法や業務内容を把握してもらい、円滑に業務遂行できるよう支援を行うなど、新任教員の研修・教育を行い、質の向上を図る。

##### ②単位制に向けたカリキュラム編成・シラバス作成

建築士法の改正にともない業界の求める人材を育成できるようカリキュラムを編成し、それに基づいたシラバスを作成する。単位制に移行することにより、一層効果的な学びの場の提供を目指す。

#### 【取組み状況ならびに成果と課題】

##### ①新任教員の研修・教育を行い、質の向上を図る

教員の業務は「学内ルール」の理解、学生指導、授業運営などの日常業務のほか、年に一度しか行わない業務や予測が難しい業務がある。予め業務知識を備えておくことにより、ゆとりをもって取り組めるよう事前に新任教員に研修を実施した。学内の研修のみならず、外部での研修にも積極的に参加を促し、幅広い知識をもって業務を遂行していける環境づくりを目指した。これにより、教員の業務への取組みがスムーズに行えている。今後も継続して内容の改善を図り、参加対象・研修内容を広げて実施していく。また、広報業務（オープンキャンパスや体験授業）や各委員会など幅広い業務にも取り組めるようにしていく。

##### ②単位制に向けたカリキュラム編成・シラバス作成

建築士資格保有者の高齢化が進み、若年層資格取得者の確保が急務になっている。それに伴い建築士法が改正され建築士受験資格の条件が緩和されたことにより、本校においても卒業後、即時に一級建築士の受験が可能となった。同時に、建築士の受験資格を得るためには本校の指定科目の単位を取得しなければならないが、学生数の増加に伴い、指定科目の単位未取得から退学へとつながるケースも多くみられている。このようなケースに対処すべく、来年度の単位制移行に向けた整備においても、より学生個人に合わせた学習環境と再履修の機会を提供できるカリキュラムを編成しシラバスを作成することができた。今後は担当教員により授業実施状況を記録に残し改善していく。

#### 【委員の方からのご意見】

- ・新しい取り組みである新任教員への定期研修は高く評価する。近年クラスの増加に伴い、多くの新任教員が入職されているが、教員経験がない方が過半数であるため、学生と社会経験者の考え方に乖離があり、考え方の不一致が起きがちである。そのため教員としての考え方、学生との接し方を学ぶことは重要である。
- ・単位制カリキュラムについては、移行して初年度であるため、まだメリット・デメリットが分からない。
- ・学生の多様性への対応として、単位制への移行は期待できる。

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

- ・学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像は学校ホームページにて公表している。学生には「学生便覧」に記し入学時の導入教育における必須要項として共有し、就職実務の授業時に再確認することで浸透を図っている。

【課題と今後の取組み】

- ・学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像については、今後も「学生便覧」および学校ホームページでもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。教職員に対しても定例会議等において周知を徹底し、学生・保護者・関連業界等へも Web 活用により浸透を促進していく。

【委員の方からのご意見】

- ・教育の質の向上を図るため、新任教員への研修・教育をより幅広く実施していくべきである。
- ・各学科、担当教員により授業実施状況を記録に残し、効果的な学習を提供できているか確認を図るのが良い。
- ・適宜、単位制カリキュラムの再確認に努め、履修を体系的に配置できているか確認が必要。
- ・実務能力の修得と建築士指定科目のバランスを適切に調節するよう期待する。
- ・デジタルトランスフォーメーション (DX) コンテンツなど、学習の新たな手法の効果を見極め、適切に導入を図るのがよい。
- ・教員としての考え方や学生との接し方を学ぶ事は重要であり、新任教員への定期研修は高く評価する。
- ・単位制カリキュラムについては、移行して初年度であるため、まだメリット・デメリットが分からない。
- ・一社会人としてどの業界にも通用する人間力を身につけることを期待する。
- ・BIM (Building Information Modeling (ビルディング・インフォメーション・モデリング) の略称、BIM ソフトウェア Revit (レビット) または建築 CAD ソフトウェア Archicad (アーキキャド)) に加えて Rhinoceros (ライノセラス、3D モデリングソフトウェア)、Grasshopper (グラスホッパー、モデリング支援ツールプラグイン) Lumion (ルミオン、建築レンダリングソフトウェア) なども業務でよく使用しているので、今後検討の余地がある。
- ・社会でリーダーシップを持つ人材になってほしい。そのためにも、今後も学校からコンペなど外部のイベントを周知していくと良い。それによって更に学校全体のスキルアップにも繋がる。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	定められた「法人の教育理念」を学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-3	各学科の教育目標（育成人材像）を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

- 2-1：学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。
- 2-2：事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3：運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4：人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5：情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【総括】

- ・運営方針および事業計画については、法人の理念と学校の理念に基づいて策定し、年度初めの教職員のキックオフ会議にて共有している。また、事業計画については教務会議にて進捗状況を定期的に確認している。
- ・法人としての組織運営、意思決定機関は適切に機能しており、常任理事会も毎月開催され、組織の課題を迅速に合議している。さらに、各校・各部の校長代行、部長以上が合議し情報共有を行う部門長会議など、各階層別での必要な会議体も設計され開催されている。本校では責任者会議と教務会議を週1回実施し情報共有と状況に合わせた会議運営を行っている。
- ・学校法人としてグループ校共通の事務組織が設置され、業務別に部門が設けられており、担当業務も各部門の事業計画で明確化されている。部門毎に各校と連携しており、適宜、業務の流れや人員配置の見直しを行っている。さらに、事務職員の資質・能力向上についても目標設定のうえ、研修への参加などの方策を講じている。
- ・雇用区分に対応した就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書が整備されており、法人運営方針や労働関連法改正に対応し、都度、各規程を更新している。また、諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルで公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。
- ・採用活動に関しては採用管理システムの活用と採用規程および業務プロセスの整備により、情報の一元管理や活動早期化、募集・選考の判断に対する適切な検証機能を有し、活動体制の強化が図られている。
- ・学生の個人情報学内システム（麻生塾システム）で一元管理され適切に運用している。また、教職員間、学生と教職員間の情報共有手段として Microsoft teams の利用や、状況に合わせて情報システムの構成を変更するなど、業務の効率化を図っている。

【課題と今後の取組み】

引き続き法人の理念・学校の理念を確認のうえ運営方針を策定し、職員間の意識の共有を図るため、運営方針の周知・確認のタイミングを増やしていく。事業計画についても計画を意識して業務に取り組めるよう職員で確認できる機会を設けていく。さらに会議時間を見据えた時間割構成で業務効率化を図るなど工夫を凝らしかつ柔軟な改善を進めていく。また、変化していく法人の方針や多様化する働き方に対応するため、人事制度への改善や制度の再構築に伴う諸規程の整備を継続していく。

【委員の方からのご意見】

- ・学校の管理・運営体制は関連部署支援部門等との連携による委員会等会議を持っていることは良い。
- ・部門内では定期的に責任者会議・教務会議・部門会議が実施され組織的に運営されていて良い。
- ・教職員のライフステージに合わせた働き方ができるように規程等の見直し、安心して活躍し続けることができるように活動していることは評価できる。
- ・期初に業務遂行目標シートを作成し、定期的に面談を行い客観的な評価判断を実施していることは評価できる。
- ・Microsoft Teams を活用することで情報共有としての効率化は図れるが、あくまで情報共有ソフトであるため情報（主に学生が作った作品等）のストック場所は別に設ける必要がある。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S	S
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。また、適正に執行されているか。	S	S
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-3	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか。	S	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S	S
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S	S
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	S	S

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

- 3-1: 教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- 3-2: 教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- 3-3: 教育の評価を適切に行っているか。
- 3-4: 成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- 3-5: 教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

- ・教育理念、教育目標（育成人材像）に沿って、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し学生便覧で明示するなど教職員や学生に周知している。特に学生に対しては入学時のオリエンテーションで学生便覧を用いてこれらを説明するなど、周知と意識づけを図り、学校ホームページに明示することにより保護者等や関連業界等をはじめ広く社会一般にも公表している。また、職業実践専門課程の認定要件として開催している教育課程編成委員会において、業界ニーズ・社会ニーズの把握と合わせ、各ポリシーの検証をおこなっている。
- ・教育課程編成委員会での提言をカリキュラム会議で教育課程の実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき検討、協議したうえでカリキュラム編成に反映することで企業や業界ニーズを踏まえた適切な授業科目を開設し、体系的な教育課程を編成している。科目毎に学習目標を達成するためのシラバス、コマシラバスを策定し、対面授業とオンライン授業、各々の利点を活かした形式を選択または複合的に取り入れるなど、柔軟に授業を運営しており、学生の取り組み状況や理解度を把握するミニ授業アンケートや理解度確認テストと合わせ、授業の実施状況を記録として残すことでシラバスに基づいた授業を実施しているか検証できるようにしている。
- ・キャリア教育については就職実務や GCB 教育（グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム）、就職年次を対象とした就職キックオフや学内合同説明会などを通して、学生の社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成を図っている。
- ・定期的実施しているアンケート（授業アンケートやクラスのホームルームアンケート）の評価結果を担当職員へフィードバックすることにより、授業の検証・改善に取り組んでいる。

【課題と今後の取り組み】

- ・業界の変化に素早く対応できる体制を構築しておく必要があり、学校の教育活動や取り組みについて引き続き学校ホームページ等を活用し社会一般に公表していく。
- ・学生のより良い学習成果につながるよう、課題の実施時期・内容について教科間の連携を強化し、シラバス、コマシラバスに基づいた授業を実施すべく改善・周知・運営していく。
- ・授業評価の結果を分析し、継続して授業満足度や学習理解度の向上を図る必要性があり、さらに多角的な授業改善のため、他の教員の授業見学や指導力向上に関わる研修参加の推奨や支援など、組織的な取り組みを行っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・学校情報の公開に伴い、学校ホームページに明示し、公表していることは評価できる。
- ・コロナ禍を背景とした社会の変化はないか、業界における求める人材像への変動がないか、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会など、学校外からの意見収集を行っていることは良い。
- ・各科におけるカリキュラムだけでなく、カリキュラム・ポリシーの見直しも範疇に加えた情報収集を行い、学生には初回授業時にシラバスを配布し、説明を徹底していることは良い。
- ・職業実践専門課程の教育課程編成委員会にて業界ニーズ、社会ニーズの把握に努めていることは評価できる。
- ・カリキュラム会議においても理念等との整合性を検討し見直しを図っていることは良い。
- ・オンライン授業や動画コンテンツを活用した教育など学習手段に加え、効果的な学修が行えるよう調整を図ったことは継続して取り組んでほしい。
- ・授業評価の実施・評価体制は、学生への授業アンケート・ホームルームクラスアンケートにて定期的に実施され、担当職員へのフィードバックがされており良い。
- ・オンライン授業の録画確認や責任者による授業視察を行い、改善指導がなされたことは評価できる。
- ・授業内のミニアンケートや理解度の確認テストを実施し、組織的改善と各科目における進捗管理においても改善を図っていることは評価できる。
- ・成績評価、単位認定、進級・卒業の判定についての基準は明確に設定されており良い。
- ・成績評価における総合評価の詳細（定期テストの素点、他シラバス記載の評価事項）が不明瞭なので、学習強化や発展のため、フィードバックすることを検討してほしい。
- ・専門性を備えた教員を配置し、学生数増加にも適切に対応できており評価できる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目標（育成人材像）に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目標（育成人材像）に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	A	A
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S	S

3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員(すべての教員、職員、学生)に周知を図っているか。	S	S
3-2-6	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S	S
3-2-7	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A	A
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質・能力向上のための方策を組織的、多面的に実施しているか。	S	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野および指導力に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

4-1：学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2：卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【総括】

- ・前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況により、度々授業運営の変更や制限が必要になった。そのような状況下においても二級建築士学科試験合格率82%、宅地建物取引士4名合格、インテリアコーディネーター（一次試験）合格8名、福岡県建築士事務所協会知事賞（他、多数入選）やマロニエ BIM 設計コンペティション 2022 in みやぎにおける優秀賞入賞など、資格取得・コンペティションともに前年度以上の成果を出すことができた。
- ・就職指導においては、オンライン型の説明会・インターンシップが一層浸透し、採用試験傾向の分析や就職支援の改善指導も充実させることができた。企業に向けた卒業生の在籍調査の他、企業が学校に求めている人材、就職活動に関する学校への要望をアンケート等で情報収集しており、結果については業界動向や卒業生の動向等と合わせ、就職担当より就職部会（週1回）を通して教職員に情報共有している。
- ・各クラスの運営状況については毎月クラス運営報告書において把握し、責任者が中心となって休学・退学防止のガイダンスを細かく実施しているが、休学や退学が発生している。

【課題と今後の取組み】

- ・さらなる休学・退学防止のための対策を検討し実施する必要がある。学校内での活動制限も徐々にコロナ禍以前に近い状態まで緩和されつつあるなか、まずは授業内におけるクラス内コミュニケーションや学校行事、クラス行事を通じて学修環境の基盤となる学生間の人間関係の構築と、社会性の育成に重点を置くなど、包括的な支援に取り組むことで退学率の低減を図っていく。
- ・就職支援については就職担当と教職員が密に連携し合い、内定先企業と卒業生の情報把握に努め、業界動向、卒業生の動向などをもとに指導体制の強化と教育活動の改善を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・学生数増加に伴い多様性のある学生も相対的に増加傾向にあり、さらに新型コロナウイルス感染症対策としての活動制限など、コロナ禍以前のような形での指導を行えていない状況下での指導は評価できる。
- ・想定している資格・検定・コンペ等も、実施の変更を余儀なくされたものもあり、対策の難しさの中、対応しているところに評価できる。
- ・退学等の増加は様々な学校で出ている傾向ではあるが、原因を探り対策に尽力していただきたい。
- ・退学同様、離職についても把握して良いのでは。卒業後、就職後のフォローは必要なのではないか。
- ・アンケートだけでなく WEB ミーティング（面談）なども併用した方が良いのでは。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率およびコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A	A
4-1-3	資格取得等に関する指導体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S	S
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	A	A
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	S	S

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

**【総括】**

- ・入学前から卒業後にいたるまで学校法人麻生塾学生支援グループ（以下、「学生支援グループ」という。）や同就職グループ（以下、「就職グループ」という。）と連携し学生の修学支援、進路支援を行っている。特に経済面の支援として特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化の認定など、各種支援制度を準備しており、社会人学生に対しても同様に経済面での支援制度を整備し就職支援を行っている。
- ・就職支援では、就職グループの担当職員による就職指導や担任による職種理解支援、求人票・履歴書作成指導、企業情報の提供を行っている。また、卒業生に対しても再幹旋や再就職の相談受付などのキャリア支援を行っている。
- ・修学支援や生活環境、就職支援については保護者等との連携も重要なため、三者面談や就職説明会を実施し、また、必要があれば適宜保護者等と連絡を取り合い、状況説明と情報共有を適切に行っている。
- ・生活環境への支援としては、直営寮・提携寮を完備している。寮監を配置し定期的または緊急時にも学生の様子を報告してもらう仕組みを取り入れている。
- ・学生の課外活動としては、学内のサークル（建築サークル）が自治体のイベントや各種コンペティションに参加しており、担当教員がその活動実績を教職員全体で共有できるよう情報提供している。

**【課題と今後の取組み】**

- ・今後も修学支援、生活支援、進路支援の取組みを継続していく。

**【委員の方からのご意見】**

- ・入学前から卒業後まで学校法人麻生塾教育推進グループ（以下、「教育推進グループ」という。）、広報グループ、就職グループ、学生支援グループ、国際交流センターなどにより、学生の修学支援、進路支援、キャリア支援を行っていることは評価できる。
- ・経済面での支援制度として、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化の認定など、各種の支援制度を準備していることは良い。
- ・学外活動（自治体イベント、各種コンペ）に参加の都度、担当教員が活動状況を情報共有し、担任からも学生へ直接声かけを行っていることは評価できる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-7	保護者等との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-8	卒業生への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-9	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	S	S
5-1-10	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

6-1：教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2：教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

- ・専修学校設置基準を遵守し施設・設備を整備して適切に運営を行っており、今年度は特に、空調機器の入れ替えやネットワーク設備を整備した。また学生数が増加しているため、教室計画の見直しと学習環境の維持に努めている。麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として総合図書館を設置しており、規程やルールを定め学生便覧に掲載すると共に、教室内へ利用案内を掲示するなど、学生への周知を図っている。また、図書や書籍を含む資料類は、固定資産管理規程に基づき適切に管理している。
- ・全てではないが、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し学外研修や現場見学・現場体験、インターンシップなど、企業と連携し実施することができた。
- ・安全管理のマニュアルを整備し学生の安全確保を図っている。また、学生数の増加などを考慮し、毎年実施していた避難訓練も今年度は学科単位で避難経路・避難場所の確認を行うことができた。

【課題と今後の取組み】

- ・経年劣化に伴う施設・設備の整備を校法人麻生塾業務推進グループと進めていく必要がある。同時に計画的な施設管理・整備も必要であり、業界の求める人材を育成するための新設備の導入を進めていきたい。
- ・引き続き、学外研修、現場見学・現場体験、インターンシップなど企業と連携し行っていく。また、安全管理体制をはじめ、学生の安全を確保できる環境を整備していく。

【委員の方からのご意見】

- ・専修学校設置基準を遵守し整備して運営を行っている。学生数の増加による教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めていることは評価できる。
- ・総合図書室およびキャリアサポートセンターの運用については、それぞれの専門分野に関する資料を定期的に収集、保管し、教職員や学生が利用できる状態になっていることは良い。
- ・固定資産管理規程に基づき、図書や書籍を含む資料類を適切に管理していることは評価できる。
- ・設備（3D プリンターなど）、図書は学生の意見や要望を取り入れるような取り組みがあっても良いと思う。
- ・現場見学や現場体験、インターンシップについて、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、流行時期の見極めを判断しつつ、充分な対応をとっていくつかの現場や施設などと連携した学びを行うことができたことは評価できる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

- ・募集要項、学校公式ホームページで公表しているアドミッション・ポリシーに基づき、適正な募集活動を実施している。また、選抜方法に関しても募集要項に明記し、かつ選抜基準を定めて適正に入学者選抜を行っている。また、校納金等についても健全な設定がなされており、金額変更などの決定事項は議事録に記載し、校納金シートや募集要項へ正確に反映させるなど関係部署への情報共有を行っている。

【課題と今後の取組み】

- ・アドミッション・ポリシーに準ずる人材を育成するための定員や選抜基準などの再確認が必要である。また、物価高騰による校納金等の増額に対して、再度内容を検討し適切な設定の再確認を進め、今後も適正な募集活動に取り組む。

【委員の方からのご意見】

- ・取組み内容については評価できるが、今後も継続した取組みを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	校納金（学生納付金）等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

- ・財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。学校の財務面の管理運営については、予算計画の策定、月次における予実管理および昨年度対比による分析を実施し、その中で重要な差異が生じた場合には原因の特定や問題点の把握に努め、適切に対応している。また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、財務情報公開の体制を整備し、ホームページにて貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題と今後の取組み】

- ・今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取組みを継続的に行っていく。その取組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討と実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・取組み内容については評価できる。今後も継続した取組みを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

- ・学校法人麻生塾人事グループ（法務担当）（以下、「人事グループ」という。）・教育推進グループ等の関係部署と密に連携し、専修学校設置基準と合わせ、職業実践専門課程及び文部科学省専門課程認定校の基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。その他の法令遵守についても、グループ校と統合的に機能している人事グループと密に連携し、リスク管理（リスクマネジメント）に注力している。また、学生には学生便覧に個人情報保護基本方針やハラスメント防止に関して記載し理解の促進と法令違反の抑止につとめている。

【課題と今後の取組み】

- ・グループ校を統括している本部組織部門（人事グループ、教育推進グループ等）と連携し、より密接な情報共有と適正な学校運営に継続して取り組む。建築士法をはじめとする関連法令に基づき、建築士の養成を図ることはもちろんのこと、建築士受験資格の認可要件となっている建築士指定科目を滞りなく建築技術教育普及センターへ申請し管理する。また、それに沿った運営を行っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・取り組み内容については評価できる。今後も継続した取り組みを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
9-1-1	専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。  
また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

- ・学校教育や学校運営については、毎年、自己点検・評価を実施し、課題解決に取り組んでいる。また、職業実践専門課程の基準に基づき、学校関係者評価委員会（年1回）・教育課程編成委員会（年2回）を開催し、有識者や関連企業関係者から定期的に意見を収集し、教育活動及び学校運営に関する検証を行っている。自己点検・評価における改善指摘事項については改善計画を立て、課題改善に努めている。評価結果については、遅滞なく教務会議において教職員全員に共有し、学校ホームページで公表している。

【課題と今後の取組み】

- ・職員の自己点検・評価の認識に乖離がみられるため、共通理解を深める機会をより積極的に設けていく必要がある。自己点検・評価結果、および自己点検・評価審査結果の内容を引き続き教務会議にて共有し活動意義や必要性について、教職員全員がより深く共通理解を図れるよう効果的に発信を行う。また、自己点検・評価結果に対する教職員間の認識の乖離を最小限にとどめられるように委員以外の教職員にも自己点検・評価活動に加わってもらい、理解度や意識の均一化を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・取組み内容については評価できる。今後も継続した取組みを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

- ・地域貢献活動として学校の教育資源等を活用し、地域の「まちづくり推進協議会」と連携した講座を行った。学生のボランティア活動は、推進委員会を設置し、GCB教育（グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム）の方針に沿って、多様な機会を提供する仕組みとしているが、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響が大きく、感染防止の観点から参加が見送られたものが多かった。その中でも、学内のサークル（建築サークル）が、「ラブアース・クリーンアップ2022」や学校周辺の清掃活動を自主的におこなった。そのほかの地域や外部のボランティア活動（美野島商店街（福岡市博多区）、NPO法人福岡建築ファウンデーションのイベント協力）にも参加した。

【課題と今後の取組み】

- ・感染症の流行状況に注意しつつ、学校特性や学んでいる専門性を活かした With コロナにおける地域貢献活動の推進と拡充を図る。

【委員の方からのご意見】

- ・取り組み内容については評価できる。今後も継続した取り組みを期待する。
- ・地域における活動も公民館を中心に再開されてきたので、地域とともにいろいろな活動に参加してほしい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S	S

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

- ・留学生の在籍管理やビザ更新に関しては、国際交流センター、学生支援グループなど留学生担当部門と連携し法令遵守につとめており、留学生の就職支援においても就職支援グループと担任間で連携し、包括的な支援を行っている。生活面においては留学生専用寮を設置し、新型コロナウイルス感染症罹患時における衛生指導などを綿密に実施した。また、学生便覧の学則部分に外国人学生規程を明記し学生への周知と理解を促している。
- ・昨年度は世界的な感染リスクを鑑み、渡航留学プログラムを一時中断してオンライン留学制度に切り替えていたが、今年度は感染リスクが低減した一部の国において、渡航留学プログラムを再開した。留学プログラムについては、麻生専門学校グループ内の留学担当部門が説明会や学生・保護者等向けのオリエンテーションを実施し、必要に応じて個別面談・アドバイスをを行った。また、外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応するなど、海外留学全般に対する支援を適切に行っている。

【課題と今後の取組み】

- ・引き続き国際交流センターをはじめ、学生支援グループ、就職支援グループなどの関係部署と連携し海外教育プログラム、海外留学奨学制度の周知浸透のみならず、全教職員の留学生支援に関する制度理解と意識向上を図る。

【委員の方からのご意見】

- ・留学先で事件や被害に巻き込まれないための対策が講じられているかなど、把握することができれば留学を検討している学生の保護者等も安心できるのではないかな。
- ・留学生支援はコロナ禍での対応で困難であったと思うが、これからも充実させてほしい。
- ・取り組み内容については評価できるが、今後も継続した取り組みを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
12-1-1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S	S
12-1-2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	S	S
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S	S

以上